

向暑の砌 宮崎県防衛協会青年部会宮崎支部会員の皆様には、恙なくお過ごしのことと拝察致します。漸く第五類に格下げされた「新型コロナ」も、6度目のワクチン接種を終えた我々世代には全く歯が立たぬようですが、沖縄県では未だ衰えず猛威を振るっているとの報道も仄聞し、今夏沖縄旅行をご計画中の方は呉々もご用心賜れば幸いです。

さて先月は誠に自衛隊関連行事が多かった1ヶ月で、先ず9日はホテルマリックスでの宮崎県自衛隊退職者就職援護協力会総会出席を皮切りに、14日は4月にご着任された今井高等工科学学校長を横須賀市の武山駐屯地表敬訪問、そして18日はMRTmiccでの宮崎県隊友会総会参加、又24日は全日本空挺同志会宮崎県支部総会が同じくホテルマリックスで開催され、更には30日の宮崎神宮会館にての宮崎県偕行会総会に参加し、何と都合5回のビッグイベントにご同席させて頂きました。

何れの総会等も新型コロナ期間はその開催を自粛しており、まるで堰を切ったかの如く4年振りの再開でお懐かしい方々との邂逅は本当に楽しく、リアルに会話を交わして杯を傾けることの愉快さを改めて痛感させられた次第です。

実は26日に宮崎県防衛協会青年部会の総会も都城で開催されたのですが、私への連絡が遅く既に別件の予定を組んでいたものでやむなく欠席し、宮崎支部からは大草理事と福添会員に代理出席をお願い致しました。

現時点で私の手許に総会資料が届いておらず県総会の詳細はわかりませんが、26日は神道政治連盟宮崎県本部主催の時局対策研修会が神宮会館で開催され、講師として織田元空将の講演が予定されており、先にそちらへ出席回答をしていた都合上のことでした。

織田元空将は産経新聞の正論やプライムニュース等で拝見致しますが、初めてお目に掛かり「ウクライナ戦争と日本の課題」と云う時局解説を拝聴し乍ら、横暴な常任理事国による国連の機能不全及び脆弱な国際法等、更にウクライナと日本の共通点は「非核三原則・専守防衛・集団防衛体制不参加」等と喝破され、大変良く理解することが出来ました。

また米国民一人当たりの防衛費は年間約22万円で、韓国や豪州は12万円、仏10万円、英9万円、独8万円に対して、日本国民は僅か4万円しか負担しておらず携帯電話通信料の61,500円さえ下回っているとのこと指摘もあり、大いに首肯したところです。

そして我が国防衛の基本政策には、「必要最小限」の軛から逃れられぬ「専守防衛」と、「軍事大国にならぬこと」の相互矛盾が横たわり、問題の淵源としての「日本国憲法」を改正せねば戦後最大の危機である中国、ロシア、北鮮の3正面に対応出来ず、それは国民一人一人の「自分の国は自分で守る」決意と覚悟が求められていると結ばれました。

令和5年7月1日

宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部長 小 倉 和 彦